



写真2 Annacis Island 下水処理場（元世界一だった斜長橋を望む）

こうして視察初日も無事終了したが、バス移動で2ヶ所の視察と言うのは時間的に余裕が無く、昼食もあわただしいものであった。いつ食べたか記憶も無いほど久しぶりにハンバーガを食べ、なかなかおいしいと変に感心してしまった。しかし、このファーストフードが次の日も続くとは思ってもいなかった。

2日目は、今回の視察で唯一施設の視察になっており、朝早くから、まず、Greater Vancouver Regional District (GVRD) 広域行政体の運営する58万 m^3 /日(90万人規模)の大規模なAnnacis Island下水処理場へ向かった。市内に入る車の長い縦列を対向に見ながらバスは走ったが、これまた大きな処理場で進入口がわからない。ようやくたどり着き、案内された管理棟は良く整備されており、手馴れた様子で施設の説明をしてくれた

が、肝心のバイオマス関連の話がなかなか出てこない。水処理そのものは、2次処理がやっと整備されたようで、日本の3次処理を含む高度処理はまだ先だが、今後必要になってくるのだろう。消化ガスによる発電で場内の電量の60%、熱は全量が自給できているとの事であった。脱水汚泥は一部コンポスト利用とのことだが、重金属の問題等を聞くと、だんだんトーンが落ちてきた。しかし、バイオソリッドの森林への還元や鉱山の植生再生の有効性等を大学で研究しているとの話は、森林王国だけに羨ましいところである。

次に訪れたのはMontenay社で、240t/日×3基=720t/日規模のマルチン式ストーカ炉のごみ焼却施設であった。維持管理は、有資格者が計36名で対応しており、各人の持ち場を勤務時間内にローテーションするなど、どの設備にも対応できるよう多能化を図っていた。チップングフィーの